

浜松観光ボランティアガイドの会

徳川・武田両軍の死者を供養する念仏踊り 『遠州大念仏』

浜松市の無形民俗文化財『遠州大念仏』が7月15日(月)、犀ヶ崖古戦場広場で開催されました。

午後、犀ヶ崖愛護会の人たちによって『おしよる様』を納める供養台が準備され、資料館内に祭壇も作られました。夕方になり盆踊り大会が始まると、徐々に観客が増えてきました。参加者や近隣の人たちに話を聞くと「子供たちと2日間だけ練習したのよ。毎年踊っているからね」「5歳から70年間ずっと見に来ているよ」バスで来た女性は「以前この辺に住んでいたの。離れても必ず来ます」と話してくれました。

辺りが暗くなると、葵紋の提灯を持った人を先頭に「浜松上島組」が入ってきました。小学生5人を含めた9名が、太鼓を切るようにたたき踊りが15分程続きました。この日は雨こそ降らなかったものの、湿度が高く、見ていただけでも暑かったです。終わった後「上島小ですか。暑くて大変でしたね」と声をかけたら、「はい、6年です。4年生から続けているから平気です。この後まだ次に行くんですよ」と爽やかな笑顔でした。

8時から昨年同様熱演していた「新原下善組」です。この組独特の背中を地面に付けて太鼓をたたき姿を見ていると、450年前の三方ヶ原の戦いを



上島組の念仏踊り

連想してしまいました。ゆらゆらと燃える送り火の炎の中に、双盤(そうばん)の同時に打たれた音が響きあい消えていく様子に、必死に戦った若者たちの姿を見たような気がしました。本多忠真の嫡男もこの戦いに出陣しましたが、父や友の死を思い出家してしまいます。

子供の頃から何度も見てきた『遠州大念仏』、犀ヶ崖で見たのは初めてでした。無常観というか、哀愁が漂っていて太鼓の音が心に響きました。「来年も来よう」と思ったのは私だけではないでしょう。

広報部 高羽百代 (北ブロック)

静大留学生 『三方ヶ原の戦い』を学ぶ！

7月3日(水)、静岡大学浜松キャンパスの留学生を中心とした16名が、国際連携推進機構の袴田先生引率の下、犀ヶ崖資料館を訪問。「日本事情」という授業の一環で、今年は浜松市について勉強しているそうです。留学生は、ベトナム、ミャンマー、中国、台湾、ドイツ、ペルーなど様々な国から



会員の説明を受ける留学生たち

来ており、資料館の説明ビデオの内容はちょっと難しかったようですが、熱心に見ていました。西ブロックの当番さんが対応してくれました。

授業が終わってからの訪問だったため、閉館時間が差し迫る中での見学でしたが、大念仏の双盤を鳴らしてみたり、崖下をのぞいてみたりとぎりぎりまでしっかり見学してくれました。徳川家康が三方ヶ原の戦いで生き残り、後の江戸幕府を開いたこと、大念仏では敵味方関係なく慰霊を行うこと、死者を弔うために歌ったり踊ったりすることなどが印象に残ったようです。

今まで知らなかった日本文化を知ることができたと喜んでいました。7月15日開催の遠州大念仏も実際に見に来てくれました。私の担当している日本語の授業とは全く違う、浜松のお薦めを紹介することができて、とてもうれしかったです。

広報部 松沼素子 (南ブロック)

夏休み子供講座『浜松城公園今昔』もっと知ろう調べよう！

7月27日(土)夏休み子供講座「浜松城公園今昔」今年の子供講座は「浜松城公園今昔」というテーマで、1日目講座、2日目現地学習という予定で企画されましたが、現地学習は、熱中症警戒アラート発令の為残念ながら中止となりました。

講座は浜松市防災学習センター（はま防～家）を会場として、市内の小学生7名が参加されました。参加者は徳川家康、織田信長、本多忠勝などが好きで、浜松城以外に大坂城、二条城、犬山城、松本城、鳥羽山城、掛川城などにも行ったことがあるという歴史好きの皆さんです。

初めに小池副会長から「授業では習わない、教科書にも出てこない浜松城公園の歴史をぜひ自由研究の参考にしてください」と挨拶がありました。

その後事業部の沼田副部長の司会で、最初の講師として長松谷会員が浜松城公園の「昔」の話、特に明治時代以降の様子を重点的に解説しました。

近代史に当たる部分は大人でも難しいところだと思いますが、長松谷会員はパソコンを操作しながらスクリーンに動きのある地図や文字を表示して巧みに説明し、「東京ドームが6個位入る広さ」「動物園やロープウェイがかつてあった」などと、わかりやすく丁寧に説明しました。参加者からは「難しい！けど自由研究書ける！」「弓道場もあったとは知らなかった」などの感想を聞きました。



講師の説明に熱心に耳を傾ける子供たち

次に二人目の講師の堀内会員から、明日行くはずだった「今」の浜松城公園について説明がありました。パネルを使って浜松城公園にある天守閣や天守門などの建物や、今はない二の丸御殿の場所などを、まるで今現地にいるような熱演ぶりで説明をしました。

「現地学習行きたかった！」と残念がっている参加者が複数いましたが、講座では皆さん充実した学習ができた様子でした。

広報部 都築厚好（北ブロック）

ふるさと講座 in 西小学校 「浜松まつりの歴史」

6月11日(火)、浜松市立西小学校を訪問して、3年生78名を対象に、「浜松まつりの歴史」に関するふるさと講座を行いました。

最初に事業部の中村部長から、「まつり会館や浜松城、犀ヶ崖資料館などでガイドの会のメンバーが案内をしているので、皆さんも遊びに来てください」と挨拶がありました。

講座の内容は、浜松まつりの様子を映したビデオを見てもらい、それから順次、事業部のメンバーが講師となり、凧の始まりや浜松まつりについて説明を行いました。

凧は戦国時代に通信手段として使われたことなど凧の歴史の話から実際に凧を見せて、骨組みなどの細かな構造について学んでもらいました。

また、子供が生まれたときのお祝いとして行う凧揚げについて、講師自らの体験談として、自分が子供の頃、そして父親になったときのことを当時の写真を使って説明しました。

さらに、実際に浜松まつりを体験してもらうために、まつりのときの「練り歩き」を披露し、子供たちにも参加してもらって、かけ声に合わせて一緒に練りを行い、大いに盛り上がりました。

最後に「5月に行われる浜松まつりでは、実際に凧揚げを体験できるコーナーや凧と記念写真が撮れるコーナーもあるので、来年はぜひ家族みんなで来てください」とPRも忘れませんでした。



質問に回答する中村部長

質問コーナーでは、奇抜な質問に講師の人たちも返答に戸惑う場面もありました。1時限(45分)の限られた時間の中でしたが、講師の皆さんの熱心な説明で、子供たちに浜松の歴史ある文化を伝えられたことは、大変有意義であったと思います。

広報部 長松谷晃徳（東ブロック）

北ブロックミニ研修 家康家臣団屋敷跡を歩く

北ブロックとしては久しぶりのミニ研修を7月10日(水)に実施しました。研修場所は昨年、中・西ブロックで実施した「徳川家康家臣団屋敷跡巡り」です。北ブロックから18名、西ブロックから1名、中ブロックから1名の合計20名が、暑さを心配しながら浜松城を9時に出発しました。気温は30度を超えていたとは思いますが、雲が多く、やや暑さが軽減された天気助けられて、全員最後まで歩ききることができました。

北ブロックも中・西ブロックの研修とはほぼ同じルートを行いました。まず鹿谷方面へ進み「近藤康用」、鹿谷郵便局の「酒井正親」、浜松城公園西側の「本多重次」へ。そして今は立て札が取り払われてしまった高町の「榊原康政」へ。康政の屋敷は二の丸にあったという説もあるというのが撤去の理由のようです。三組町の「山家三方衆」の濱松秋葉神社で集合写真を撮り、「鶴殿氏長」の西小学校へ。さあ次は「鳥居元忠」というところで、突如谷野ブロック長が一騎駆けし、意外な方向へ。皆が追いかけていくと、着いたのは住宅街に囲まれた「大賀たんぼぼ広場」でした。元ソニー社長の大賀典雄氏が浜松市に土地を寄付してできた公園で、中には小さな農園もあり、ほとんどの人が初めて来たようでした。



暑さにも負けずに笑顔の参加者

最後は中央図書館の「鳥居元忠」、下垂口の「松下之綱」と巡って終了。距離約5キロ、1万歩の行程は、夏の研修としてはかなり頑張ったと言えるのではないのでしょうか。

研修終了は今年度新入会員の歓迎会を兼ねた昼食会へ。楽しく雑談して研修を締めくくりました。当然と言えば当然ですが、家康家臣たちは浜松城からほど近い周辺に住んでいたことが実感できました。常在戦場の時代だったとはいえ、せめて家にいるときくらいは気が休まっていたらいいのですが、果たして…

広報部 都築厚好 (北ブロック)

会員の交流広場

小田原戦国まち歩きツアー「徳川家康と初代藩主大久保忠世の小田原をめぐるツアー」に参加しました。

箱根登山鉄道・箱根板橋駅に集合。ガイドはなんと甲冑姿に弓棒を手に現れた。

まずは、日本最古と言われる小田原用水を見て回った。大久保家とゆかりがある板橋子育て地蔵尊で、家紋が前期と後期では「大」の字が異なる説明を受けた。次は秋葉山大権現へ。三尺坊からの勧請。途中の民家には東照宮が祀られていた。小雨が時折ぱらついたが、ひどい雨えにはならず済んだ。



小田原用水

板橋見附へ来ると、いよいよここから城内へ入り、大久保寺へ。大久保家の菩提寺で一族の墓がある。蝶型兜は空襲で焼けたとのこと。

実はどこかに残されているのではと、探そうとロマン



甲冑姿のガイド

小田原戦国まち歩きツアーに参加

となっているとの話も。石垣山を見ながら早川口遺構へ。秀吉攻めに対応して二重の土塁となっている。水路や早川が堀となり、地形を利用して小田原城が形成されている。

御花畑跡や石垣を見ながら海岸へ。海岸沿いを歩き土塁跡を見ながら、法性山正恩寺へ。三河から移された寺。大久保忠隣の子の墓がある。

次は不老山無量寺へ。家康ゆかりの地で、家康公夫婦の木座像が祀られている。家康公の御朱印をありがたく頂いた。

海岸を離れ小田原城の銅門・常盤木門を通り、いよいよ天守下へ。ここまで3時間少し。長い道中だったが、十分に楽しめた。またじっくりと訪れたい小田原でした。



家康公の御朱印



小田原城天守を望む

中ブロック 鈴木孝久

新入会員の入会動機



1年間大河ドラマ館のボランティアをして、いろんな事を学び、体験しました。このまま終わってしまうのは寂しいなと思っていた時、会員からのお誘いがあり、参加させていただくことになりました。研修が始まり、先輩方の知識の豊富さに圧倒されて、この先ついていけるか心配ですが、まず一步踏み出してみようと思っています。
よろしく願いいたします。
南ブロック 舛田けい子



サラリーマン生活を7年前に終え、自宅周辺の畑で野菜作りや自治会活動に参加してきました。旅行が好きで、今年は何国道後温泉、北海道野付半島、北陸、山陰に行きました。旅行は、旅先で実際に見て聞いて、それまで知らなかったことを体験出来ます。そんな矢先、新聞の浜松観光ボランティアガイドの募集が目に入りました。自分は、旅行はしているものの浜松の歴史文化について何一つ知識がないことに気がきました。従って、「浜松を訪れたお客様に対して浜松を知って頂き楽しんで頂ける観光ボランティアガイドに成れたならば」と思い応募をしました。今後は、先輩の方々に少しでも近づけるように日々努力したいと考えます。
北ブロック 佐野梅雄



昨年9月に、浜松駅 地下道で偶然に10数年ぶりに会った旧知の友が「観光ボランティアをやってるよ」ということを知り入会をしました。会の存在は、以前より知っていましたが、時間的余裕がなくて、入会を見送っていました。
1月からの座学に始まり、現地研修や講演会と充実したカリキュラムに感謝しています。
東ブロック 井澤としを



ドラマ館のボランティアをしていた際、となりの芝生がキレイに見えたためです。実際、参加してみると皆さまのオ・モ・テ・ナ・シの精神と知識に驚くばかりです。新人研修の感想ですが、ガイド研修での皆さまの健脚には驚きを禁じませんでした。某お寺では、古くからの友人の菩提寺だったりして此処何十年も連絡して無かったのできっかけができました。
中ブロック 金原清勝

7月のガイド活動 《明く楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

3日	水	浜松市立伊佐見小学校	85名
9日	火	おおもり旅クラブ	15名
10日	水	磐田市立豊岡北小学校	44名
16日	火	静岡文化芸術大学	36名
19日	金	韓国からの視察	5名

《犀ヶ崖資料館》

3日	水	浜松市立伊佐見小学校	85名
		静岡大学留学生	16名
4日	木	浜松市立都田南小学校	60名
5日	金	浜松市立芳川小学校	108名
19日	金	立教池袋中高地歴研究部	28名

《浜松まつり会館》

実績なし

はままつ案内人会報 265号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中央区元城町 100-2 (浜松城内)
TEL 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ http://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地